

Cente Technical Information

発行番号	101-0066	Rev	第1版	発行日	2013/03/11
題名	キャッシュのブロック単位の書き込みを考慮していなかった為、修復不能になる場合がある不具合について (メタデータ保護機能使用時)				
情報分類	障害情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.00～Ver6.01				
影響API	fopen, fputc, fputs, fwrite, rename, remove, move, chg_attr, chg_tstamp, chg_filelen, mkdir, rmdir, fopen_uni, rename_uni, remove_uni, move_uni, chg_attr_uni, chg_tstamp_uni, mkdir_uni, rmdir_uni, ini_journal, ini_journal_uni				
関連資料	なし				

【現象】

ini_blk_cache, ini_blk_cache_dirの第4引数(キャッシュブロック数)を2以上にした場合で
キャッシュ内容をメディアに書き込み中に電源が落ちるとブロックのいずれかのセクタで不良セクタとなる可能性があります。
修復時この不良セクタを読み取るとエラーが発生するので修復処理エラーとなっていました。
又、読み取りエラーでない場合でも壊れたデータを書き戻してしまいます。
不具合の起こるキャッシュは以下です。
1) ディレクトリキャッシュ
2) FATキャッシュ

【原因】

キャッシュをブロック単位で使用した場合 (ini_blk_cache, ini_blk_cache_dirの第4引数
キャッシュブロック数を2以上にした場合)、デバイスへの書き込みはブロック単位の
複数セクタをまとめて書き込みます。
この書き込み中に電源が落ちるとブロックのいずれかのセクタで不良セクタとなる
可能性があります。
修復対象メタデータはキャッシュのブロック単位でバックアップしていない為、不良
セクタへの上書きが出来ないのでデータを復元できませんでした。

【回避方法】

修復不能に陥らないようにするにはVer6.10へのバージョンアップが必要です。
詳細は弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上